

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術ⅡB(介)(DB102)			担当教員	石橋 亜矢		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、 <u>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</u> どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識についてプレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して習得する学習とする。この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。							①②③⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	高齢者を支援する専門職の役割を理解し、ICFの視点を生活に活かすことができる。				定期試験 単元別小テスト 実技チェック	30% 5% 15%	
情報収集、分析力	ICFの視点でアセスメントすることができる。				課題レポート	10%	
コミュニケーション力	グループで課題に取り組む際、自分の立場で何が必要かを考え説明することができる。				定期試験 実技チェック	10% 10%	
協働・課題解決力	介護を必要とする利用者を理解し、安心できる介護や生活を実現できる為の方法について考えることができる。 利用者の状況・状態にあったバイタルチェックを実践することができる。				単元別小テスト 授業態度・参加	10% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
「定期試験」(40%)は、合格基準を60点以上とし筆記試験(持ち込み不可)を行う。「実技チェック」(25%)は、バイタルサインの実技試験を評価する。「単元別小テスト」(15%)は、9回目に実施する。「課題レポート」(10%)は、介護実習室で演習に取り組んだ際の「生活支援技術演習レポート様式」を用いて作成し、提出後フィードバックを行い学生と共有する。「授業態度・参加」(10%)は、授業中の態度、熱意、質問に対する返答の仕方等を評価する。							
授業の概要							
生活支援とは何かを学び、生活支援技術の基礎として、利用者のアセスメントのためにICFを理解する。さらに観察についても学ぶ。演習科目であるが、基本的な用語の理解や原理・原則の理解も必要なため、講義を交えた形態をとる。講義室でのグループ討議、介護実習室での演習も実施する。また、知識の確認と技術の習得を判断するための実技テストも行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：新・介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅰ』 新・介護福祉士養成講座11『こころからだのしくみ』 中央法規 発行者：荘村明彦 参考書：『ぜんぶわかる 人体解剖図』成美堂出版 指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック2018下 中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
利用者が送っている生活を理解するために、まずは自分自身が日頃どのような生活を送っているのかを意識的に考えて下さい。そして、行動一つひとつは様々な動作が組み合わさっていることも意識的に考えて下さい。利き手ではない方の手でボタンをかけたり、食事をしたりすることで生活のしづらさを部分的に理解できます。授業の予習として、それらを体験した上で授業に臨まれることを期待します。 注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけること。また欠席の場合は事前連絡を行うこと。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	生活支援技術のねらいと目的	本科目についての概要と評価方法の説明、基本的な用語（生活、ICF、アセスメント、バイタルサイン等）について学ぶ。また、生活支援技術ⅡAの振り返り確認を行う。	予習：シラバスを読み、本教科の内容を理解する。 復習：教科書等を再読し、用語を調べる
2	生活の理解①	生活の定義について学ぶ。 生活形成のプロセスについて学ぶ	予習：生活の定義について調べる。 復習：生活形成のプロセスについて学ぶ。
3	生活の理解②	生活経営や管理等、基本原則について学ぶ。	予習：教科書を読んでおく。 復習：管理の方法や原則について整理する。
4	<u>生活支援の理解①</u>	生活支援の考え方について理解し、基本原則について学ぶ。	予習：生活支援を整理。 復習：生活支援を説明できる。
5	<u>生活支援の理解②</u>	生活支援の必要性について考え、目的や方法について学ぶ。	予習：生活支援の必要性を調べる。 復習：生活支援の目的や方法を検討する。
6	ICFに基づく <u>生活支援の理解①</u>	ICFとは何か、概要や活用について学ぶ。	予習：生活支援を整理する。 復習：ICFにおける概念図を理解しておく。
7	ICFに基づく <u>生活支援の理解②</u>	環境因子への関わり方やその活用について学ぶ。	予習：ICFの概念を調べる。 復習：ICFの活用について発言できるようにする。
8	ICFに基づく <u>生活支援の理解③</u>	ICFの視点に基づくアセスメント、ICFを活用した生活支援について学ぶ。	予習：ICFを理解する。 復習：アセスメントや生活支援を整理する
9	ICFに基づく <u>生活支援の理解①～③の小テスト</u> 観察の技法①	30分程度の解説を含めた小テストを行う。 観察、バイタルサインの基礎知識について学ぶ。	予習：バイタルサインの意義を調べる。 復習：バイタルサインを整理する。
10	観察の技法②	バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：基準値を調べる。 復習：演習した項目を振り返り、レポートを作成する
11	観察の技法③	バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：測定法を調べる。 復習：演習した項目を振り返り、レポートを作成する
12	観察の技法④	バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：測定法をイメージする。 復習：実技練習をする。
13	観察の技法⑤	バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：測定法をイメージする。 復習：実技のレポートを作成する
14	観察の技法 実技チェック	10回目～13回目で学んだバイタルチェックについての実技チェックを行い、チェック後は振り返りを行う。	予習：実技チェック自己評価表を作成する。 復習：実技の再確認を行う。
15	まとめ	これまで学んできた、生活（生活形成、生活経営・管理、しかつ支援等）、ICF、アセスメント、バイタルサインについての理解を深める。	復習：教科書・これまでに配布したプリントを確認し定期試験に備える。